

認定特定非営利活動法人アレルギー支援ネットワーク 2015年度 事業報告書

I. 事業実施の方針

- ①組織・財政の基盤強化をする。
- ②アレルギー大学事業および栄養士派遣事業を基盤事業として発展させる。

II. 事業の実施に関する事項

1. 特定非営利活動に係る事業

(1) 情報の普及・啓発・交流事業

各地で行われる「会」の交流会、講演会、ホームページ、メルマガなどを通してアレルギーに関する科学的知識の普及啓発及び交流を行う。

1) アレルギーの会支援事業

①会の設立と活動を支援する事業

主に年賀寄付金助成金 2,600(千円)により事業を実施した。

事業内容	<p>1. 保健所・保健センターなど地域の保健機関と連携をして、三河地域(東海市)、尾張地域(犬山市)の地域の会の設立を目指す。名古屋市内の患者会については、保健所と連携した支援ができるよう働きかけを強化する。</p> <p>2. 「名古屋市内連絡会」を定期的開催(年3-4回)し、名古屋市のアレルギー施策などの向上をめざし、各区の連携を強め、名古屋市に要望を提出する。</p> <p>3. 「東海アレルギー連絡会」の事務局として、大規模災害に備えた広域的な連携をおこなう組織に発展できるようサポートする。</p>
結果	<p>東海地域にある 40 団体中 19 団体に、のべ 85 回の活動支援をした。</p> <p>1. 保健センターと連携をして、新たに、「東海市」と「瀬戸市」に患者会の設立をした。 名古屋市内の患者会は、保健師・栄養士と連携をした活動ができるよう、区の保健所に協力依頼の働きかけをした(南区・中村区・守山区)。</p> <p>2. 「名古屋市内連絡会」を、6/5(金)、9/29(火)、11/24(火)、3/1(火)に開催。名古屋市の学校給食および、各区患者会の運営について意見交流をおこなった。給食問題については、10/28(水)に、名古屋市教育委員会・学校保健課と懇談を行い、要望を提出した。</p> <p>3. 「東海アレルギー連絡会」の事務局として、4回の交流会を開催した。 4/19(日)交流会 8/2(日)総会 11/28(土)交流会・勉強会 3/26(土)助成事業報告会・交流会 11/28の勉強会のテーマは、「災害に備えて～一般市民として最低限必要なこと～」で、講師は、「自分を守る、家族を守る、地域を守る～地域の中の連携～」 名古屋みどり災害ボランティアネットワーク・副代表・大友滋さん 「家具の固定と災害時のトイレ」 天白ディプリ・代表・田中由幸さん 真如苑/市民防災・減災活動助成金(50万円)事業を実施した テーマ 「東海地域のアレルギーの会(患者会)と、各地の災害ボランティア団体・防災課をつなぐ事業」 1/23(土)東郷町、1/24(日)美濃加茂市、2/15(月)蒲郡市、3/12(土)あま市において、「みんなで学ぼう災害の備え～アレルギー疾患を持つ親子の災害対策～」(ミニシンポジウム)を開催した。それぞれの地域の、アレルギー専門医・防災課・防災ボランティア・社会福祉協議会・保健センターに参加を</p>

	要請し、現状報告と情報交換をおこなった。支援ネットからは、地域の関係機関において、アレルギーの理解が進むよう中間支援の立場で、アレルギー疾患を持つ子どもの災害対策について提案をした。
--	---

②「アレルギーの患者家族会」支援助成事業（会活動費助成事業）

事業内容	「アレルギーの会」が継続して活動をすすめるには会の運営資金を会費で賄うだけでは困難であり、持続的に会財政が潤う仕組みを工夫し、支援する。具体的には、小口の助成金収入と物品販売活動を通して会の収入が増えるよう援助する。
結果	会の共同購入による活動費助成金は、8団体に対して 13,356 円の還元金。 〈団体会費減免申請〉 22 団体（28 団体中）

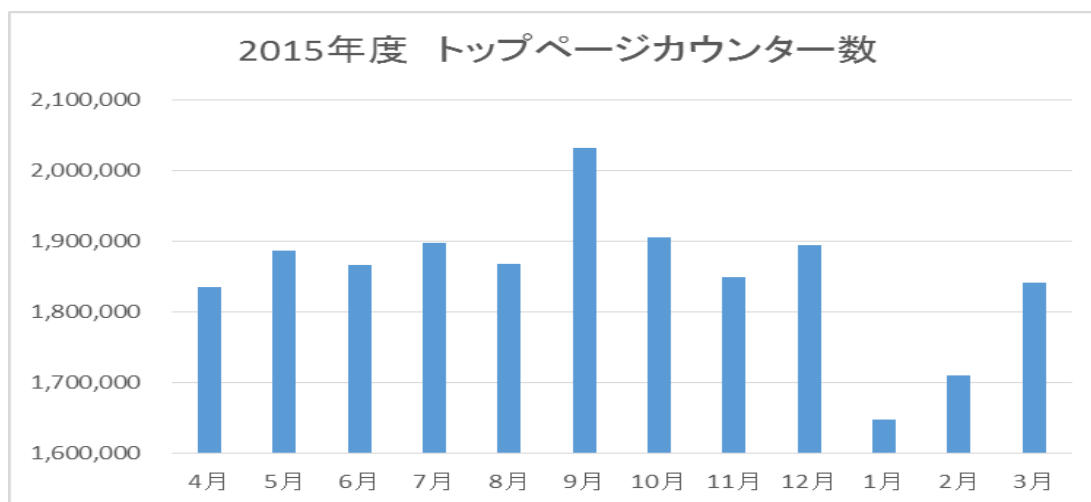
③スタッフ、リーダー育成事業

事業内容	アレルギーの会を支えるお母さんたちは、孤立しがちな患者やその家族同士を結びつけ励ますために、日々苦勞しているが、自らを研鑽し、スキルアップを図るための支援は殆どない。このため、支援ネットの（ボランティア）スタッフのスキルアップはもとより、各会のリーダーを支え、育成する事業をおこなう。 アレルギー大学基礎・初級以上に参加するリーダー（各会年・3人まで）の資料代などを免除し、中級以上の受講については交通費を補填する。又、スタッフやリーダーに必要な資質を向上するための養成プログラムをそれぞれが自主的に計画できるようにし、実施する。
結果	「リーダー養成講座」として、アレルギー大学を 2団体のリーダー 3人が受講した。 （東郷アレルギーの会 2人・東海市アレルギーっ子の会 1人） 全講座終了後、感想文の提出をもって、受講費の返金と交通費を支給した。 合計 受講費 98,000 円 交通費 17,460 円

2) ホームページ・メールマガジンによるWeb情報の提供

事業内容	1. HP の情報の追加と更新および HP 原稿の依頼を随時行う。 2. 広告欄の掲載を賛助会員から募集し、掲載を進めていく。 3. 支援ネットでの活動報告を GIVEONE サイト、gooddo（ソーシャルグッドプラットフォーム）に定期的に行う。（facebook を効果的に活用する。） 4. 食物アレルギーに関する臨床医学論文リストを、新規に掲載する。
結果	【HP閲覧状況】 年間閲覧総数：22,234,820（4月～3月合計数）

2015年度 トップページカウンター数



検索キーワード

「アナフィラキシーショック」「食物アレルギー検査」「食物アレルギー」「アレルギー大学」が上位にある。5月は「アレルギー大学 ベーシックプログラム」で検索あり。常に上位にある「アナフィラキシーショック」が12月はより多く検索されていた。

【メルマガ登録者数】 1,418 (PC用: 1010 携帯用: 408)
 新規登録 PC用 104 件、携帯用 72 件

【gooddo (ソーシャルグッドプラットフォーム)】 (3ヶ月に入金)

広告協賛費としての収入 4月~3月 66,004 円

【GIVEONE】 オンライン寄付サイト (カード決算の為2ヶ月後の入金)

「アレルギーっ子の防災・救援ネットワークシステム」 4月~3月 64,500 円
 (手数料 9,675 円含む)

「東海地域にアレルギーを持つ親子を支えるサロンを」 4月~3月 121,195 円
 (手数料18,163円含む)

【東海ろうきん NPO 寄付システム】 毎月1回 100 円単位の寄付。現在 13 名が登録。
 4月~3月 14,500円

3) 講演会・講習会の開催および講師派遣事業

事業内容	アレルギーなどに関わる科学的知識や実生活に役立つ情報を広げる講演会や講習会を行う。 1. アナフィラキシー対応とアドレナリン自己注射器の講習会(あいち小児保健医療総合センター) 食物アレルギー児の誤食事故の対策として園や学校の教職員などから要望の多い講習会を月に1回程度開催する。 2. 講演会講師の派遣 自治体や企業からの依頼に応じ、アレルギー専門医・管理栄養士など講師の派遣を行う。 3. アレルギーっ子のフェア開催 (2015年3月20日(日) 名古屋国際会議場 展示室) 4. 各地の患者会が主催する講演会に協力する
結果	1. アナフィラキシー対応とアドレナリン自己注射器の講習会 4/28(火)、6/2(火)、9/18(金)、12/1(火)、3/24(木)に開催 合計5回の開催で受講生は、269 人。

日程	申込人数	出席人数	所属内訳												
			保育園	幼稚園	小学校	中学校	高校	特別支援	大学・短大	消防	保護者・個人	施設	専門学校	教育委員会・市関係	病院
4月28日	78	77	8	8	22	9	1	10	0	9	5	1	0	3	1
6月2日	63	60	19	5	18	0	0	0	0	3	3	2	0	9	1
9月18日	56	55	9	4	4	0	0	1	0	15	6	1	2	12	1
12月1日	35	34	1	0	7	1	1	0	0	15	6	1	0	2	0
3月24日	55	43	3	1	7	0	0	2	0	0	8	1	1	20	0
集計	287	269	40	18	58	10	2	13	0	42	28	6	3	46	3

2016.3現在

2. 講演会講師の派遣

講師	依頼先 (自治体)	依頼先 (園や学校)	依頼先 (その他)	テーマ(アナ フィラキシ ー)	テーマ (その他)	合計
医師	4件	5件	3件	7件	5件	12件
その他	13件	8件	17件	12件	26件	38件

3. 第11期アレルギー大学開講記念講演会&アレルギーっ子のフェア開催 (2015年3月20日(日))

一部、年賀寄付金助成金により実施した。

名古屋国際会議場 展示室

3/20(日) 講演会「アレルギーはどこまで予防できるか? ~今わたしたちにできること~」

講師・・・福家辰樹先生 91名(大人)

体験コーナー・こども企画・展示ブース・スタンプラリー 348人来場

初めて、新聞広告を掲載した。

中部小児アレルギーケア研究会(小児アレルギーエデュケーター)の協力により実施した。

4. 各地の患者会が主催する講演会に協力(講師派遣・資料展示など)

6/13(土)田原の会「みんなで知ろうこどものアレルギー」 資料展示支援

7/ 13(月)桑名の会「アレルギーっこのための栄養相談会」

9/15(火)名古屋市緑区の会「入園・入学の準備 勉強会」

9/27(日)日進の会・長久手の会「パッククッキングでかんたん防災力アップ」

10/17(土)蒲郡の会「あつまれアレルギーっ子!~君はひとりじゃないよ~」

10/27(火)名古屋南部の会「調理実習」

10/31(土)小牧の会「東尾張ブロックボランティア集会」

11/1(日)豊橋の会「みんなで知ろう 食物アレルギー」

11/11(水)「アレルギーっ子の楽しい外食のすすめ」

11/22(日)刈谷アレルギーの会・調理実習

11/25(水)長久手の会・調理実習

1/16(土)日進の会「食物アレルギーの正しい知識と対処法」

1/31(日)蒲郡の会「入園・入学の準備について」

4) アレルギー相談事業

事業内容	E-mailや電話による相談 ホームページなどの閲覧者や園や学校などから、Eメールや電話によるアレルギーなどの相談に対して各分野の専門家などによるアドバイス活動を行う。
------	---

結果	<p>【メール相談件数】</p> <p>2015年4月～2016年3月 約95件 内容は、患者会の問い合わせ、企業からの商品紹介、マスコミからの取材依頼、防災対策に関する問い合わせが多く見られた。</p> <p>【電話相談件数】</p> <p>患者家族からの相談 40件（給食3件、治療12件、成人4件、会の運営6件、その他15件（寝具・防災・転居・学童保育など））</p> <p>企業・マスコミからの相談 20件（マスコミ5件、自治体2件、企業7件、その他6件）</p>
----	--

5) アレルギー大学修了生(マイスター・サポーターを含む)による地域ミニ講座

事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 修了生がアレルギー大学のDVDを利用し地域でミニ講座を開催する仕組みを構築する。 2. 地域の「会」への支援を行う「サポーター」の育成をはかり、「サポーター」の組織化を図る。サポーター会議を年に4回開催する。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1. ミニ講座実施に至らず。 2. 登録サポーターは、13人。サポーター会議は、5/31総会、9/6ベーシックプログラム、11/29研究実践講座、3/20アレルギーっ子のフェア において開催。 サポーターは、4患者団体に対してのべ 27回の支援を行った。 2/27(土) 第一回マイスター・サポーター会議を開催し組織化について諮ったところ、賛同を得た。

6) アレルギー患者家族支援事業(受託事業)

事業内容	<p>自治体からの受託事業として、アレルギー患者家族の支援を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 名古屋市公害保健課 喘息デイキャンプ(自己管理支援教室)および親子教室において患者家族の交流会を担当する。 2. 津島保健所「あれるぎっ子サポートチームプロジェクト」事業 「海部地域あれるぎっ子地域相談会」を担当、および 「関係機関連携会議」に出席する。 3. 保健所と協働で患者家族支援の取り組みを模索する。 4. 愛知県教育委員会「学校給食における食物アレルギー対応に関する検討委員会」の委員を務める。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 親子ぜんそく教室(園児)・・・6/28. 7/5. 7/19. 12/13 保護者交流会の進行を担当した。 事前うちあわせ6/2. 6/15. 7/1. 11/25に参加 ぜんそくキャンプ(小学生)・・・7/20. 10/4. 2/7 保護者交流会の進行を担当した。 事前うちあわせ9/25. 1/20 2. 津島保健所「あれるぎっ子サポートチームプロジェクト」事業 7/21(火) 第一回関係者連携会議 8/28(金) 食物アレルギー地域相談会。 講師は津島市民病院・小児科部長 高田弘幸先生 個別相談会(医師・栄養士(仲))と交流会(支援ネット担当) 12/16(水) 食物アレルギー地域相談会 (8/24. 12/8うちあわせ) 2/26(金) 第二回関係者連携会議

3. 保健所と協働で患者家族支援の取り組みを模索する。
東海市および瀬戸市の患者会設立において、保健センター・保健師の協力を得た。
4. 愛知県教育委員会「学校給食における食物アレルギー対応に関する検討委員会」の委員を務めた。 6/22(月)、1/18(月)

(2) 専門職の育成支援事業

1) 「アレルギー大学」事業

事業内容	愛知、静岡、岐阜、三重、新潟、千葉、京都、沖縄 各会場にて開講する。 千葉会場は、「NPO法人千葉アレルギーネットワーク」、京都は、「NPO法人アレルギーネットワーク京都 ぴいちゃんねっと」、沖縄は「サポートデスク準備委員会」が独立採算で運営をする。																																																										
結果	<p>【全体】 アレルギー大学の参加者はのべ2523人となり、その職種別の内訳は管理栄養士25%（民間施設従事者を含む）、栄養士15%（民間施設従事者を含む）、給食調理員7%（民間施設従事者を含む）、調理師5%（民間施設従事者を含む）、保育士7%、幼稚園教諭1、教諭（養護教諭を含む）2%、看護師11%、保健師1%、保護者10%、学生7%、その他11%だった。</p> <p>【愛知会場（名古屋市）基礎・初級、中級、上級、研究実践、特別実習】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>受講生数</th> <th>栄養・調理 (修了)</th> <th>教育・医療 (修了)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎・初級</td> <td>129</td> <td>70</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>コースなし(初級)</td> <td>12</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中級</td> <td>46</td> <td>60</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>コースなし(中級)</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>上級</td> <td>28</td> <td>21</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>コースなし(上級)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>217</td> <td>151</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table> <p>【愛知会場】愛知県のアレルギー大学の参加者はのべ1,639人（基礎・初級講座のべ681人、中級講座のべ508人、上級講座のべ344人、研究・実践講座97人）となり、その職種別の内訳は管理栄養士25%、栄養士13%、給食調理員10%、調理師6%、保育士7%、幼稚園教諭0%、教諭（養護教諭を含む）0%、看護師10%、保健師0%、保護者9%、学生8%、その他10%であった。第10期アレルギー大学コース修了生は66人（栄養・調理コース49人、教育・医療コース17人）</p> <p>【静岡会場（浜松市）基礎・初級、中級の一部】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>受講生数</th> <th>栄養・調理 (修了)</th> <th>教育・医療 (修了)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎・初級</td> <td>49</td> <td>17</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>コースなし(初級)</td> <td>3</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>中級</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>コースなし(中級)</td> <td>0</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>54</td> <td>17</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>				受講生数	栄養・調理 (修了)	教育・医療 (修了)	基礎・初級	129	70	23	コースなし(初級)	12	0	0	中級	46	60	15	コースなし(中級)	2	0	0	上級	28	21	7	コースなし(上級)	0	0	0	合計	217	151	45		受講生数	栄養・調理 (修了)	教育・医療 (修了)	基礎・初級	49	17	8	コースなし(初級)	3	-	-	中級	2	-	-	コースなし(中級)	0	-	-	合計	54	17	8
	受講生数	栄養・調理 (修了)	教育・医療 (修了)																																																								
基礎・初級	129	70	23																																																								
コースなし(初級)	12	0	0																																																								
中級	46	60	15																																																								
コースなし(中級)	2	0	0																																																								
上級	28	21	7																																																								
コースなし(上級)	0	0	0																																																								
合計	217	151	45																																																								
	受講生数	栄養・調理 (修了)	教育・医療 (修了)																																																								
基礎・初級	49	17	8																																																								
コースなし(初級)	3	-	-																																																								
中級	2	-	-																																																								
コースなし(中級)	0	-	-																																																								
合計	54	17	8																																																								

【静岡会場】静岡県のアレルギー大学の参加者はのべ196人（初級講座のべ181人、中級講座のべ15人）となり、その職種別の内訳は管理栄養士27%（民間施設従事者を含む）、栄養士19%（民間施設従事者を含む）、給食調理員6%（民間施設従事者を含む）、調理師20%（民間施設従事者を含む）、保育士6%、幼稚園教諭0%、教諭（養護教諭を含む）1%、看護師4%、養護教諭4%、保健師0%、保護者0%、学生5%、その他9%でした。

【新潟会場 基礎・初級】

	受講生数	栄養・調理 (修了)	教育・医療 (修了)
基礎・初級	24	11	3
コースなし(初級)	2	0	0
中級			
コースなし(中級)			
合計	26	11	3

【新潟会場】新潟県のアレルギー大学の参加者はのべ146人、その職種別の内訳は管理栄養士31%（民間施設従事者を含む）、栄養士3%（民間施設従事者を含む）、給食調理員2%（民間施設従事者を含む）、調理師4%、保育士0%、幼稚園教諭4%、教諭（養護教諭を含む）0%、看護師7%、保健師4%、保護者0%、学生41%、その他4%でした。

【千葉会場 基礎・初級、中級、上級】

	受講生数	栄養・調理	教育・医療
基礎・初級	44	44	
コースなし(初級)	4	-	
中級	13	13	
コースなし(中級)	3	-	
合計	64	57	

【千葉会場】千葉県のアレルギー大学の参加者はのべ524人（初級講座のべ299人、中級講座のべ82人、上級講座のべ83人）、その職種別の内訳は管理栄養士26%、栄養士27%、給食調理員3%、調理師3%、保育士5%、幼稚園教諭1%、教諭（養護教諭を含む）2%、看護師16%、保健師0%、保護者4%、学生8%、その他6%。

【京都会場（京都市）基礎・初級】

	受講生数	栄養・調理	教育・医療
基礎・初級	25	19	6
コースなし(初級)	4	-	-
中級	-	-	-
コースなし(中級)	-	-	-
合計	29	19	6

【京都会場】京都府のアレルギー大学の参加者はのべ180人、その職種別の内訳は管理栄養士21%、栄養士5%、給食調理員0%、調理師6%、保育士0%、幼稚園教諭6%、教諭（養護教諭を含む）2%、看護師8%、保健師6%、保護者27%、学生4%、その他15%でした。

【沖縄会場 基礎・初級】

	受講生数	栄養・調理	教育・医療
基礎・初級	28	19	9
コースなし(初級)	2	-	-
中級			
コースなし(中級)			
合計	30	19	9

【沖縄会場】

沖縄県のアレルギー大学の参加者はのべ180人、その職種別の内訳は管理栄養士33%、栄養士4%、給食調理員0%、調理師6%、保育士14%、幼稚園教諭0%、教諭(養護教諭を含む)0%、看護師8%、保健師0%、保護者12%、学生0%、その他15%でした。

●千葉から愛知への振替1名、千葉から静岡への振替3名
新潟、愛知から千葉への振替計3名
コースなしの受講生は看護師、学生が多い。忙しいため興味のある講座のみ受講していると思われる。

【食物アレルギーマイスター】

第10期より2名が、マイスター審議委員により認定された。

2) 「インターネットアレルギー大学」事業

事業内容	<p>1. 第9期アレルギー大学の講座をインターネットで配信し受講してもらう。特に「アレルギー大学を開催できない」地域でもアレルギー大学が受講できる機会を確保し、各地で「アレルギーの会」をサポートし、地域・学校・保育園でアレルギー対応がすすむよう取り組みをする。</p> <p>2. チラシの配布先を増やす。PP資料込でのコース料金設定とする(1講座2,000円)。また、上級までまとめてお申込み頂いた方には、特典として、教科書を1冊贈呈する。</p> <p>3. アレルギー大学iPad用電子教材の作成を検討する。 各講座のiPad用教材を作成し、学校・保育園、食品産業で利活用できる総合ネットワークシステムの構築をひきつづき検討する。</p>
------	---

結果	＜インターネットアレルギー大学＞ 第9期アレルギー大学を配信																																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コース</th> <th>申込人数 (2015年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初級のみ</td> <td>15(東北支援2名含む)</td> </tr> <tr> <td>中級のみ</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>上級のみ</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>中級+上級</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>初級+中級+上級</td> <td>32(東北支援1名含む)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>52</td> </tr> </tbody> </table>		コース	申込人数 (2015年度)	初級のみ	15(東北支援2名含む)	中級のみ	2	上級のみ	2	中級+上級	1	初級+中級+上級	32(東北支援1名含む)	合計	52																		
	コース	申込人数 (2015年度)																																
	初級のみ	15(東北支援2名含む)																																
	中級のみ	2																																
	上級のみ	2																																
	中級+上級	1																																
	初級+中級+上級	32(東北支援1名含む)																																
	合計	52																																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>(2015年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>栄養士</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>患者の家族</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>給食調理員</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>調理師</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>保育士</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>養護教諭</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>学生</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table>		職種	(2015年度)	管理栄養士	9	栄養士	5	患者の家族	14	看護師	7	給食調理員	2	調理師	2	保育士	2	養護教諭	1	学生	1	その他	9	<table border="1"> <thead> <tr> <th>知りえた媒体</th> <th>2015年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホームページ</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>チラシ</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>知人の紹介</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	知りえた媒体	2015年度	ホームページ	28	チラシ	8	その他	15	知人の紹介
職種	(2015年度)																																	
管理栄養士	9																																	
栄養士	5																																	
患者の家族	14																																	
看護師	7																																	
給食調理員	2																																	
調理師	2																																	
保育士	2																																	
養護教諭	1																																	
学生	1																																	
その他	9																																	
知りえた媒体	2015年度																																	
ホームページ	28																																	
チラシ	8																																	
その他	15																																	
知人の紹介	1																																	
<p>＜広報活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国保育士会、栄養士会、調理師会（東海地方除く）120ヶ所に配布依頼 ⇒栄養士会（10ヶ所）、保育士会（5ヶ所）、調理師会（1ヶ所）返答あり <p>＜パンフレット配布先＞</p>																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>団体名</th> <th>配布数</th> <th>料金</th> <th>申込み人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秋田県栄養士会</td> <td>100部</td> <td>無料</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>北海道栄養士会</td> <td>1200部</td> <td>10円/1通(1万2千円前後)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>東京都栄養士会</td> <td>3550部</td> <td>20円/1通(7万1千円前後)</td> <td>5(2016年5月配布)</td> </tr> <tr> <td>(相模原市保育連絡協議会)</td> <td>110部</td> <td>無料</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>徳島県保育協議会</td> <td>260部</td> <td>無料</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>福島県保育協議会</td> <td>300部</td> <td>無料</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>				団体名	配布数	料金	申込み人数	秋田県栄養士会	100部	無料	0	北海道栄養士会	1200部	10円/1通(1万2千円前後)	1	東京都栄養士会	3550部	20円/1通(7万1千円前後)	5(2016年5月配布)	(相模原市保育連絡協議会)	110部	無料	0	徳島県保育協議会	260部	無料	0	福島県保育協議会	300部	無料	0			
団体名	配布数	料金	申込み人数																															
秋田県栄養士会	100部	無料	0																															
北海道栄養士会	1200部	10円/1通(1万2千円前後)	1																															
東京都栄養士会	3550部	20円/1通(7万1千円前後)	5(2016年5月配布)																															
(相模原市保育連絡協議会)	110部	無料	0																															
徳島県保育協議会	260部	無料	0																															
福島県保育協議会	300部	無料	0																															

3) 「アレルギー大学ベーシックプログラム」事業

事業内容	栄養士や保育士養成校の学生を対象に、アレルギー大学基礎講座を一日に凝縮して実施し、基礎講座修了証を発行する。今年度は、一般受講も受け付ける。
結果	

	愛知		岐阜	三重	新潟	千葉	合計
	主会場	サテライト					
学生	366	251	31	24	77	38	787
一般	54	50	63	60	32	22	281
受講合計数	721		94	84	109	60	1,068
パンフ配布数	10,000		3,000	2,000	4,000	500	21,000

4) アレルギー教本普及事業

事業内容	保育園・学校などが行うアレルギー給食の担い手である栄養士、調理員、保育士、教員など専門職を対象に、食物アレルギーの手引書「食物アレルギーの基礎と対応」を普及する。今年度は、改訂版の出版準備を行い、2016年4月に改訂版の出版をする。
結果	アレルギー大学（インターネット含む） 734冊 書店 138冊（小川先生講師の講演会、日本アレルギー学会、難治喘息学会、(株)みらい） 名古屋学芸大学・管理栄養学科の教科書として52冊 増刷版は、残 501冊・・・インターネットアレルギー大学の教科書として使用する予定。 改訂版は、5月末 発刊に向けて編集中

5) 「ホントに美味しい食物アレルギー攻略法」小冊子普及事業

事業内容	これまでの集団調理と患者指導の中で蓄積してきたアレルギー対応レシピをベースとして、食物アレルギーの患者や給食担当者が利用できるレシピ集「ホントに美味しい食物アレルギー攻略法」を制作、販売する。除去食レシピだけでなく、除去から解除に向かって利用できるレシピ集とする。 オールカラー 150ページ、1冊2500円、第1刷1000部目標
結果	平成28年度に実施予定

(3) 調査研究事業

1) 自主研究事業

今年度は実施しない。

2) 共同研究事業

① 外食産業調査研究事業（名古屋学芸大学との共同事業）

事業内容	名古屋学芸大学（和泉教授）と協同でおこなった外食産業の実態調査をもとにしたマニュアルを、ホテル・旅館で汎用できる内容にし、HPに掲載。広く一般に活用をしてもらう。
結果	長島観光、銀波荘、リゾートトラスト、沖縄 QOL トラベルにマニュアルを活用して頂き、意見および依頼内容を参考に、マニュアルの改善点等を検討しマニュアルを見直した。今後さらに活用しやすいマニュアルを作成していく予定。また、マニュアルの展開の仕方についても検討する。

② ひやりはっと事例集積研究事業

事業内容	藤田保健衛生大学坂文種報徳会病院小児科・宇理須厚雄客員教授・近藤康人教授と協働で、アレルギー疾患に関する「ひやりはっと事例」を常時収集、解析し、教育関連施設事故防止などに役立てていただく。 今年度は、「ひやりはっと事例集2015」作成に向けて、事例の収集を行う。(委託事業)
結果	6月よりアンケート用紙の配布を開始し、各地の医療機関、患者会・親の会、アレルギー団体、アレルギー大学等で約1700部配布。また、7月中旬よりインターネットによるアンケートを開始し、当初の9月30日の締め切りを延長し10月15日まで募集をした。合計で約180件の回答が得られ、支援ネットでデータ入力を行い、11月19日に近藤先生にデータをお渡しした。事例集2015は、2016.6頃発刊の予定。

③ アレルギー対応を支援する給食管理・注意喚起システム構築事業

事業内容	名古屋工業大学 伊藤孝行研究室との協同研究として、アレルギー対応を支援する給食管理・注意喚起システムを構築する。助成金・補助金の申請を試みる。
結果	2年間をかけて、システムを構築し、7月に袋井市給食センターを訪問、システムの改善について意見交換、8,9月でシステム開発、修正、10月末に試運転のため納品。 給食センターは、システムを使った上で、他社製品との比較をした結果、他社製品を採用した。

④ 学童保育におけるアレルギー対応の実態調査、および、アレルギー研修の開催と「アレルギー対応の手引き」作成事業 (あいちモリコロ基金 平成27年度大規模活動助成金事業・平成27年度～平成29年度3年間事業)

事業内容	1. 学童保育施設におけるアレルギー対応状況の実態調査(平成27年度) 2. アレルギー研修会の実施(平成27.28.29年度・毎年開催) 3. 「アレルギー対応の手引き」作成(平成28年度)
結果	(あいち学童保育連絡協議会との協働事業) 4/10.7/29. 担当者会議 実態調査アンケートの作成、アレルギー研修会の企画立案を行った。また、研修会の後援名義申請と、広報の協力をいただくため、愛知県子育て支援課を8/21に訪問した。 11月初旬 アンケート発送。 11/末 アンケート締切、結果を解析(回収率30%弱) 12/4. 1/14 担当者会議、 解析結果の情報共有と、研修会の準備 1/26(火) 「学童保育におけるアレルギー対応」研修会(ウインクあいち) 愛知県内各市町より約130名の参加があった。 講師 小川雄二先生

⑤ 大学間連携共同教育推進事業 (名古屋学芸大学との共同事業)

事業内容	「愛知県内教員養成高度化支援システムの構築」事業において、名古屋学芸大学・管理栄養学部・和泉秀彦教授に協力をする。
------	---

結果	「食物アレルギー対応 DVD」の製作において、構成とシナリオを担当した。
----	--------------------------------------

3) 受託事業

①臨床研究事業

事業内容	<p>1. ビフィズス菌及び DHA を配合した牛乳アレルギー用ミルク『MA+DB』に関する哺育調査 ビフィズス菌及び DHA を配合した牛乳アレルギー用ミルク『MA+DB』の安全性と便性状・便細菌叢に及ぼす影響を確認するためのパイロットスタディを 2014 年度に受託したが、計画人数を達成するため 1 年間延長して実施する。</p> <p>2. 麹菌発酵大豆培養物及びビフィズス菌臨床研究 (ニチモウバイオティクス株式会社の受託研究事業) 1~5歳のアトピー性皮膚炎に対する麹菌発酵大豆培養物及びビフィズス菌の安全性および治療補助効果に関する試験を、ニチモウバイオティクス社より受託し、伊藤浩明(あいち小児保健医療総合センター)およびアレルギー支援ネットワークが研究調査を行う。実施期間(2014年12月~2015年6月)</p>
結果	<p>1. ビフィズス菌及び DHA を配合した牛乳アレルギー用ミルク『MA+DB』の安全性と便性状・便細菌叢に及ぼす影響を確認するためのパイロットスタディを 2014-2015 年度で実施した。目標症例数(20 例)には満たなかったが、9 名が調査を完了し、依頼元である森永乳業株式会社に報告した。</p> <p>2. 全症例のデータ解析を終了し、結果を依頼元に返すと共に、論文発表を完了した。 (田島巖、中川朋子、杉浦至郎、榎村春江、中西里映子、漢人直之、重廣宗一郎、潘偉軍、伊藤浩明、麹菌発酵大豆培養物(イムバランス)が小児アトピー性皮膚炎に与える影響 アレルギーの臨床 36(4): 55-59, 2016)</p>

②グループインタビュー・モニター受託事業

事業内容	患者家族のQOL向上のためのアレルギー関連商品開発に協力する事業として、アレルギー患者家族に対するグループインタビューやモニター調査を受託する。
結果	計測ツールを用いた室内アレルゲンマネジメントの実地検証調査のためのモニター12名を紹介(3/27に納品) 調査は、2015. 3. 31-4/22に実施完了した。

③食物アレルギーに関する医学論文(系統的レビュー)をリスト化し、一般向けの要約をつけて Website上でその情報を公開する事業 (新規事業)

事業内容	臨床研究の結果は患者を含めた一般市民に周知することを目的とする。国内外でこれまでに報告されている食物アレルギーに関する医学論文(系統的レビュー)をリスト化し、一般向けの要約をつけてWebsite上でその情報を公開する。
結果	<p>有限会社テングクヤデザインにホームページデザインを依頼。 二村先生より原稿を頂き、支援ネットスタッフで随時入力とページ作成を進める。 2015年11月よりホームページにて公開。掲載論文は66編中29編(日本語訳付き)を掲載中。 ホームページ公開と同時にアンケートを実施(2015年11月~2016年3月)し、14名より回答があった。</p>

(4) 災害救援及び防災対策事業

1) 東日本大震災救援事業(赤い羽根協同募金・助成金事業(ボラサポ))

「被災地のアレルギー患者の命を守る事業」（アレルギーの普及啓発事業）

事業内容	<p>被災地において、アレルギーへの理解を広げる活動を、医療機関、自治体、子育て支援団体と協働で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アレルギー講演会の開催 2. インターネットアレルギー大学の無料配信 3. アレルギー相談会の実施 講演会の会場において、医師による相談会を開催する。 4. 子育てサポータースマイル およびNPO法人子育てシップのスタッフのアレルギー勉強会の開催。東北沿岸地域で、アレルギー患者家族の支えとなるよう、スタッフの方の知識のレベルアップをはかる。アレルギー支援ネットワークと協働でアレルギー講演会と相談会の開催をすることにより、アレルギーの基礎知識を習得する。講演会準備で訪問中に、両団体のアレルギー勉強会を開催する。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1. アレルギー講演会を2回開催した。 時期：2015年5月17日 74人参加 / 9月27日 48人参加 場所：大船渡市 対象者：保育士・栄養士・保健師・教員・患者家族など 内容：5/17「園や学校でのアレルギー対応～医療機関や家庭との連携～」 9/27「こどものアレルギーと向かい合うための知識～みんなでアレルギーを知ろう!!～」 講師：岩手医科大学・小児科学講座 佐々木朋子先生 2. インターネットアレルギー大学を無料配信した。 時期：通年 場所：申込者の自宅 対象者：アレルギー講演会に参加できない被災地の専門職（保育士・栄養士・保健師・教員など）および患者家族 内容：「インターネットアレルギー大学」を無料で配信。2015年度 3名受講。 3. アレルギー相談会の実施 講演会の会場において、医師・栄養士などによる相談会を開催した。 時期：2015年5月17日/ 9月27日 場所：大船渡市 対象者：保育士・栄養士・保健師・教員・患者家族など 内容：アレルギーに関する個別相談会 4. 子育てサポータースマイルのスタッフのアレルギー研修 行った 時期：10月5日 対象者：親子9組 スタッフ8名 東北沿岸地域で、アレルギー患者家族の支援をする拠点としての役割を果たせるよう、知識のレベルアップをはかった。 <p>【仮設住宅環境調査】 名古屋市（健康福祉局健康課業務係）には水谷顧問と中西、陸前高田市健康推進課には中西が訪問し、最終報告をおこなった。</p>

2) 東海・東南海・南海地震(南海トラフ地震)に備える事業

事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東海地域の患者会が、平常時から自助・共助・公助の仕組みを作っておくためのサポートをする。 2. 東海地域で備蓄しているアルファ一化米の入れ替えを、患者会および防災関連団体・医療機関と協力して実施する。 3. 発災時の支援体制を確立し訓練を実施する。
------	---

	4. 東海アレルギー連絡会の事務局として、防災対策に関する司令塔の役割を果たす。 5. 東海アレルギー連絡会と協働して、次期救援システムの検討をするために助成金の申請をする。(真如苑助成金事業・申請中)
結果	① 会の設立と活動を支援する事業 に掲載済み

3) 災害ボランティアなどの団体と協同する事業

事業内容	「震災がつなぐ全国ネットワーク」や東海地域の災害ボランティア団体・NPO と協働し、アレルギー患者家族の要支援対策の必要性を伝え、その具体化をすすめる。
結果	<p>地域の患者会が、自治体や災害ボランティアと協働できるよう支援した。また、防災のイベントに患者会とともに参画した。</p> <p>6/20(土) 宿泊型防災訓練(避難所でのアレルギー児に対応啓発)</p> <p>7/5(日) 防災フェスタin瑞穂(ブース展示・アルファ化米試食)</p> <p>7/19(日) 災害ボランティアセンター設置・運営合同研修(連携の為、研修参加)</p> <p>8/30(日) 豊橋市防災訓練(台風の為、中止)</p> <p>9/19(土) 環境デーなごや2015(RSYと展示ブース・アルファ化米試食)</p> <p>9/26(土) 防災と福祉フェア2015in一宮(展示ブース)</p> <p>10/10(土) つながり作ろう名古屋防災大作戦(炊出し時のアレルギー対応)</p> <p>10/18(日) 松阪市防災訓練(展示ブース)</p> <p>10/30(土) 東尾張ブロックボランティア集会(災害とアレルギーの話・アルファ化米試食)</p> <p>11/1(日) 愛西市文化祭(展示ブース・アルファ化米試食)</p> <p>11/5(木) 西尾市防災訓練(すいとん炊き出し)</p> <p>11/6(金)～7(土) 金山(RSYと展示ブース・アルファ化米試食)</p> <p>11/7(土) 緑区防災フェスタ(展示ブース)</p> <p>11/15(日) 長久手市防災訓練 資料提供</p> <p>11/22(日) 蒲郡市防災訓練 資料提供</p> <p>なごや災害ボランティア連絡会 毎月第一木曜日18:30-20:30 に参加をし、アレルギーに関する啓発に努めた。その結果、瑞穂区・緑区のボランティア団体の開催する防災イベント、名古屋市内の合同研修(ボランティアセンター立ち上げ訓練)、名古屋青年会議所への協力依頼があり、啓発活動ができた。</p>

4) 安否確認登録と緊急カード・シリコンリング普及事業

事業内容	災害時、親と離れ離れになったとき、アレルギー児と分かる緊急カード、シリコンリングを普及する。また、安否確認システム登録者に対し、定期的にメールを配信し情報の伝達を確認、発災時にシステムがスムーズに稼働できるようにしておく。
結果	「安否確認システム」(「トヨタ財団助成金」および「あいちモリコロ基金助成金」の助成事業)は、製作を依頼した企業が撤退されたため、運用を終了し、メールマガジン登録者に対する安否確認配信に移行することを決定した。

5) 他地域で発生する大規模災害に備えた救援事業

事業内容	他地域で大規模災害が起きた場合のアレルギー患者の支援については、平常時から他地域団
------	---

	体と災害対策の情報交換および相互支援体制の確立ができるよう、助成金を申請し交流会を開催し啓発活動を行う。今年度も、「東海・関西・中国地域ネットワーク会議(交流会)」を行い、勉強会とネットワークの設立を行う。(真如苑助成金事業/アレルギーネットワーク京都ぴいちゃんねっと・チームアレルギー(広島)との共同開催)
結果	3/5-6に「第3回 東海・関西・中国地域ネットワーク会議(交流会)」が、広島市にて開催され、参加をした。

(5) 関連用品の販売普及事業

事業内容	<p>1. 共同購入物品販売事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園向け食品販売を強化する。 ・ 『おいしく治す 食物アレルギー攻略法』をアレルギー支援ネットワーク直販だけでなく、関連学会等で委託販売する。 ・ 季節の変わり目やフェア等にて特別販売やキャンペーンを行う。 ・ 会の活動支援として共同購入の仕組みを周知する。 <p>2. 共同購入認証商品 審査事業</p> <p>申請書の提出により、経営委員会および関連委員会にて検討をする。</p>
結果	<p>1. 共同購入物品販売事業</p> <p>⇒寝具・アルファ化米のキャンペーンを実施した。(4、7、9、11、2月)</p> <p>攻略本は2000冊増刷し、委託販売を日本アレルギー学会、日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会、日本臨床栄養学会、日本小児アレルギー学会、日本病態栄養学会にて行った。</p> <p>攻略本の販売数は 1328 冊(うち学会販売は 258 冊)だった。</p> <p>また、ぴあ(株)発行の『食物アレルギーでも楽しくお出かけできる本』を販売した。患者会やアレルギー大学会場を中心に95冊販売した。</p> <p>2. 共同購入認証商品 審査事業</p> <p>⇒ 申請なし</p> <p>寝具… 819,778円 書籍… 3,694,334円 スキンケア… 374,972円 食品… 1,930,726円 その他… 99,234円 小計… 6,919,044円</p> <p>小計より、活動助成金(保育園のお菓子購入額に対して15%もしくは20%を助成と患者会への活動支援金)とアレルギー大学修了記念券値引の 274,839円をひいて、 合計 6,644,205円</p>

(6) 医療機関への栄養士派遣事業

事業内容	医療機関と委託契約を結び栄養・食事指導及び食物負荷試験の介助を行う。本年度も、従事者育成のため対象者の開拓をし、随時あいち小児保健医療センターアレルギー科での研修を行っている。また、新たな契約先も開拓し、月の契約件数を増やしていく。 指導は、アレルギー大学を修了、またはそれに相当する管理栄養士で、常勤栄養士1名、非常勤栄養士4名が担当する。
結果	11 医療機関 月1~4回 管理栄養士を派遣した。(常勤栄養士1名・非常勤栄養士4名) 名古屋市内3 医療機関、三重県2 医療機関、愛知県内4 医療機関、静岡県内1 医療機関、岐阜県内1 医療機関。 指導を行う管理栄養士は、あいち小児研修・栄養士委員会各月1回に参加した。 11 医療施設で269 回/年 指導を実施した。

2. その他の事業に係る事業

(1) ベットマットの販売事業は従来どおりアレルギーの分野のみとし、その他の事業は行わない。

(2) 愛知県職員の「2年目現場体験研修(NPO)」受け入れの協力(6年次目)

事業内容	愛知県に入職して2年目となる職員の「NPO活動を体験する」研修として、7月から12月の期間、18人の研修生を受け入れた。
結果	7/8 ~12/1 までの期間に、18人の研修生を受け入れた。NPOの活動を体験した研修生の感想では、「NPOが新たな公共サービスの担い手として、行政の弱みを補完してくれる組織であることを身をもって感じた」、「行政と違い、県民と近い立場、同じ目線から啓発活動や支援を行っていると感じた」、「同じNPO組織や行政と柔軟に協働していこうという意識が強く、ヨコのつながりを作り出す調整力やコミュニケーション力に優れていることを実感した」 「行政では画一的になりがちなことに対しても柔軟な発想をもって県民の生活をよりよくしようという姿勢を感じた」・・・などがあげられた。 この研修の目的は、NPOの業務体験を通じて、多様な生き方・価値観及び関係性に接し、コミュニケーションの重要性や奉仕の精神などを体験的に学び、県職員としての立場や役割を自ら考えることで、責任感や使命感など県民サービスの担い手として必要な高い職業観を身に着けることである、とされているため、体験研修受け入れ団体として一定の役割を果たしたと考えられる。

Ⅲ. 会議の開催に関する事項

1. 総会

(1) 通常総会

ア) 開催日時及び場所 平成27年5月31日(日) 13:00-14:10 中村生涯学習センター

イ) 議題 (1) 第1号議案 2014年度事業報告(案)について (提案 中西)

(2) 第2号議案 2014年度収支決算報告(案)について (提案 鹿島)

(3) 第3号議案 会計監査報告について (報告 長谷川監事)

(4) 第4号議案 2015年度事業計画(案)について (提案 伊藤)

(5) 第5号議案 2015年度収支予算(案)について (提案 鹿島)

(6) 第6号議案 役員の選任について (提案 中西)

(7) 第7号議案 定款の変更について

2. 理事会

(1) 第一回理事会

ア) 開催日時及び場所 平成27年6月13日(土) 13:20-13:50 名古屋工業大学4号館

- イ) 議題 (1) 理事長及び副理事長の選出と各種委員会の設置について
(2) 顧問の選任について
(3) 総務担当理事及び事務局の体制について
(4) 中西里映子の職務手当てについて

(2) 第二回理事会

ア) 開催日時及び場所 平成 27 年 11 月 3 日(火・祝) 9:30-12:30 中村生涯学習センター

- イ) 議題 (1) 上半期事業報告および上半期決算について
(2) 2015 年度・下半期事業計画・下半期予算について
(3) 審議・検討事項などについて
① 経営会議
② アレルギー大学委員会
③ 栄養士委員会
④ 災害対策委員会
⑤ アレルギー対応が後退している現状について支援ネットとしてどう活動すべきか
⑥ マイナンバー制度について
(4) 今後の理事会開催計画

(3) 第三回理事会

ア) 開催日時及び場所 平成 28 年 2 月 21 日(日) 9:30-12:00 中生涯学習センター

- イ) 議題 (1) 2015 年度 下半期事業報告 および 決算見込み
(2) 2016 年度事業計画案・予算案
(3) 審議・検討事項
① アレルギー大学事業
② 栄養士派遣事業
③ 災害対策事業
④ 調査研究事業
⑤ 資金の調達

(4) 第四回理事会

ア) 開催日時及び場所 平成 28 年 5 月 29 日(日) 9:30-12:00

- イ) 議題 (1) 平成 27 年度 事業報告および決算について
(2) 平成 28 年度事業計画・予算(案)について
(3) 審議・検討事項などについて
① 第 13 期アレルギー大学
② インターネットアレルギー大学
③ 共同購入商品検討
(4) 今後の理事会開催計画